

【基本方針1】誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出(施策の方向Ⅰ 心の豊かさを目指して、Ⅱ 文化芸術をすべての市民に)

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	参加者数 開催数 開催経費 収入	R3	R3	R4	R4	R4 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R5	R5	市総合計画 施策	まちづくりアン	
								計画時	実績	計画時	実績		方向性	計画時		R3	R4速報値
1		令和4年度 俳句入門教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 1-II 3-I 5-I 7-I	日常的に俳句に親しみきっかけとして、どこから・何から始めたらいのか手ほどきから、句会に参加できるまでを学び、俳句人口増加をめざす。 芭蕉生誕地であり俳句が多いとされる伊賀で、子どもの頃の宿題が大変であり、大人になっても苦手意識のある人も多い。苦手のままでなく、俳句は楽しいもの、続けてみたいという思いをもつ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	60 3回 50,000 2,000	29 3回 41,000 0	定員20名としているが、各回平均10名で、初心者学びや句会には丁度良い人数である。 その中から、幾人かは市内の句会に参加し始めた。	継続	- - - -				
2		令和4年度 気楽に俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 1-II 3-I 5-I 7-I	俳句入門教室を修了したが、どの句会にも参加できず、せっかく始めた俳句を作る機会としての句会とする。 また、コロナ禍で様々な句会や俳句大会が中止され、句会の無い人々に熟練、初心関係なく和気あいあいとした句会で俳句を楽しむ。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	40 2回 30,000 0	18 2回 26,000 0	参加人数が少ないため、周知方法を検討する。	継続	- - - -				
3		研修・講師派遣事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 1-II 2-I 2-II 5-I	地域や学校などで、芭蕉さんのことや俳句作りの教室研修の講師について依頼があった場合に、講師の紹介及び派遣により、それぞれの研修の支援をする。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	- - - -	毎年同地域からの依頼があるが、一定の地域に留まっている。	継続	- - - -				
4		大人の寺小屋	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 4-I 5-I	史跡芭蕉翁生家で、芭蕉さんのお父さんが子どもたちに読み書きを教えていたとこのことに倣い短時間で継続性のある内容で行う。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	12人 1回 10,000 1,000	12人 1回 6,000 0	今までなかった講座であり、短時間分かり易いと好評を得た。	継続	- - - -				
5		蕉門大学フォトゼミナール	公益財団法人 前田教育会		7-I	平成11年4月から主に風景写真に取り組んでいる。写真活動を通して、情報交換、交流を図る。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	14人	受講生の高齢化	継続	- 7回 - -				
6		蕉門大学絵画教室	公益財団法人 前田教育会		1-I	2004年(平成16年)油絵教室から始まる。講師の交替を重ねながら現在に至る。個性の表現、自分らしい絵を見つける。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	4人	課題は受講生の減少	継続	- - - -				
7		蕉門大学俳句教室	公益財団法人 前田教育会		1-I 5-I	2004年(平成16年)芭蕉生誕360年を迎えるにあたり、2002年(平成11年)から始めた。俳句に親しみ、俳句人口を増やすことを目的に、初心者を対象に募集している。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	- - - -	2002年度より始め、2022年度で第21期生である。句会は4句会結成。	継続	- 7回 - -				
8		アンサンブルの楽しみ〜ブルグミュラー25の練習曲から〜	公益財団法人 前田教育会		2-II	老若男女を問わず、ピアノに興味がある方に、管打楽器とのアンサンブルを体験してもらおう。また、アンサンブルの魅力を伝えるための演奏会も行った。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	125人							
9		大天守閣のイベント	公益財団法人 伊賀文化産業協会		1-I 2-I 4-I 6-I	天守閣という独特のロケーションの中でお琴の演奏を楽しみ、ひととき超俗の雰囲気を楽しんでいただく。誰もが知っているお城の知識からちょっと難しい問題まで、クイズに答えてお城の"はかせちゃん"になってもらう。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- 2回 30,000円 -	約80人 2回 約30,000円 -	その時の登閣者を対象にしているため、参加者数は予測できない。参加者には楽しいひとときを味わって貰っている。	継続	- - - -				
10		お城まつり	公益財団法人 伊賀文化産業協会		1-II 3-II 4-I 6-I	財団法人伊賀文化産業協会が一般の観光客、市民に天守閣の外で自由に参加して楽しんで貰う公益的事業として続けている。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- 5回 約50万円 -	約3,000人 4回 約50万円 -	弓道、太鼓、菊の各団体に運営を委ねているが天守閣を背景にしたロケーションを楽しんでもらっている。	継続	- - - -				

【基本方針2】子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充(施策の方向Ⅰ 子どもたちの心を豊かに、Ⅱ 成長に即した文化芸術の提供)

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	参加者数 開催数 開催経費 収入	R3	R3	R4	R4	R4 目的達成度、課題など実施により感じたこと	R5	R5	市総合計画 施策	まちづくりアン	
								計画時	実績	計画時	実績		方向性	計画時		R3	R4速報値
11		令和4年度 こども俳句教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	俳句を楽しみ学び、俳句が好きな子を増やす。 将来的には、こども句会を定期的(月1回)に開催し、その句会には、都合のつく子が自由に出入りできるようにする。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	60人 3回 3 3	41人 2回 34,000 0	土曜日開催であるが、高学年になると他の事業予定と重複し参加しにくい。 実施場所が、市内中央(旧上野市)で、周辺地域の参加が少ない。 市内全域を順次回るにも、一定の参加があるか不明。	継続	- - - -				
12		芭蕉翁生誕地のこども「俳句で遊ぶ」	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	伊賀市のこどもたちに、郷土の偉人松尾芭蕉のことや、芭蕉さんの人生すごろくや俳句かるたなどにより、芭蕉さんの偉業を学ぶ。 併せて、芭蕉翁記念館などの茶室でお茶の頂き方をはじめ、量の日本文化を体験する。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	30人 1回 10,000 0	0人 0回 0 0	開催時期が冬で、会場を閉め切ってしまうこと、コロナの流行により中止とした。 コロナに限らず、インフルエンザなどの流行で、実行が左右される。	継続	- - - -				
13		令和4年度 夏休みこども俳句指導	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	長年「俳句の日」に「こども俳句教室」を行い、芭蕉翁詠俳句の事業として夏休みの宿題になっている「詠俳句」の指導を行っていたが、当日の成果発表もないため、複数日の個別指導の機会をつくる。 都合のよい日、よい時間に、個別に指導を受けることができる。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	60人 3回 42,000 0	22人 3回 34,400 0	初年度であったため、PR不足。2回目からは口コミで参加者が増えた。 夏休み終盤は参加者が少ない。	継続	- - - -				
14		令和4年度 こども俳句合わせ(バトルバナナ)	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	芭蕉翁が「貝おほひ」を上野天満宮へ奉納してから350年の記念の年から始める。 こどもたちが俳句を楽しむために、一定のゲーム性を持たせる。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	36人 1回 100,000 0	0人 1回 14,320 0	初年度である令和4年は、新型コロナの第7波の到来により、チーム募集後、大会直前に中止決定した。 個人で参加意向がありながら、チーム編成が出来ない人もあった。	継続	- - - -				
15		こども蕉門大学	公益財団法人 前田教育会		2-I 5-I	開館25周年を基に、小中学生を対象とした蕉門大学を開催している。次世代に伝授すべきことがあり、そこから感性、自由な発想を伸ばす。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	31人	俳くみひも教室は、4玉の台と8玉の台で組んでいった。はいく教室は、8月の季節で俳句づくり。マジック教室は、簡単なマジックを教えてもらい、舞台上で発表をした。舞台の裏側探検隊は、照明を使って、舞台の背景色の変化を体験した。俳句教室以外は全て定員に達した。	継続	- - - -				
16		伊賀上野しょうもん亭	公益財団法人 前田教育会		2-II 7-I	1992年開館当初、落語会を催していたが、落語が一時低迷になり休止。2013年に落語ブームを受け、復活したい思いから再開。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	平均65人 5回	固定客はできている。低料金で行っているが、入場者数が伸び悩み。	継続	- - - -				
17		高校生の作品展示	公益財団法人 前田教育会		2-I 2-II 4-I	ロビー壁面を利用し、常設展示場として活用している。地域の方や蕉門大学受講生に開放している中で、更に多方面に活用していく。	参加者数 開催数 開催経費 収入	- - - -	- - - -	各校10~15	施設の有効利用(会館側)。気軽に鑑賞できる美術空間。	継続	- - - -				

【基本方針3】担い手や後継者を育成し次世代へと繋ぐ(施策の方向Ⅰ 人づくりとまちづくり、Ⅱ 多様な人材活用による文化芸術の振興)																		
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	参加者数	R3計画時	R3実績	R4計画時	R4実績	R4目的達成度、課題など実施により感じたこと	R5方向性	R5計画時	市総合計画施策	まちづくりアン	R3	R4速報値
18		蕉門大学陶芸教室	公益財団法人 前田教育会		3-I 4-I 7-I	伊賀焼きを身近に感じることを目的に、初級、中級、上級と幅広く参加できる。	参加者数 開催数 開催経費 収入				5人	目的達成度、課題など実施により感じたこと 目的達成度は市展「い」等で入選	継続					

【基本方針4】施設の整備・有効活用による文化芸術環境の整備(施策の方向Ⅰ 施設の管理と機能の発揮、Ⅱ 施設の保存と有効活用)																		
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	参加者数	R3計画時	R3実績	R4計画時	R4実績	R4目的達成度、課題など実施により感じたこと	R5方向性	R5計画時	市総合計画施策	まちづくりアン	R3	R4速報値
19		養虫庵管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		4-I 4-II	芭蕉翁ゆかりの養虫庵を保存・管理し、一般の参観に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数 開催数 開催経費 収入			2,000人	3,136人	コロナ流行の波があったものの、定休日以外に休庵することなく運営した。参観者は前年の2倍以上となったものの、一日平均10名程度である。また、茶会利用者もやや復活した。	継続					
20		養虫庵講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-I 4-II	芭蕉の弟子服部土芳の庵管理の一環として、毎年春分の日には土芳や芭蕉について、学芸員が講演を行い、春めいた養虫庵参観のを促す。	参加者数 開催数 開催経費 収入			30人	18人	講演会には会場が狭隘。養虫庵の屋根葺替え工事中で、参加が少なかった。	継続					
21		史跡芭蕉翁生家管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-I 4-II	俳聖松尾芭蕉ゆかりの史跡芭蕉翁生家を保存・管理し、一般の参観に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数 開催数 開催経費 収入			5,000人	4,637人	コロナ流行の波があったものの、再開直後で、参観者は幾分か少なかったが、改修前の参観数の2/3であった。	継続					

【基本方針5】歴史と風土が育む文化芸術の継承と新たな文化芸術の創造(施策の方向Ⅰ 郷土が育んできた歴史・文化の再評価、Ⅱ 新しい文化芸術の創造)																		
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	参加者数	R3計画時	R3実績	R4計画時	R4実績	R4目的達成度、課題など実施により感じたこと	R5方向性	R5計画時	市総合計画施策	まちづくりアン	R3	R4速報値
22		令和4年度(第76回)芭蕉祭	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-I	芭蕉翁が元禄7年(1694)10月12日、51歳で亡くなった翌年から毎年開催し、翁を偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入			1回	1回		継続					
23		令和4年度(第76回)芭蕉祭 月見の献立歓迎会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-I	復元研究した「月見の献立再現の会」により調理され、世に広め後世へ伝えていく。	参加者数 開催数 開催経費 収入			30人	30人		継続					
24		令和4年度(第76回)芭蕉祭 全国俳句大会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		1-I 1-II 5-I	芭蕉祭式典終了後、参列者が俳句大会で芭蕉翁を偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入			80人	80人	選者の数が一定せず、当日まで選者名の公表をしていないため、参加者が少ない。	継続					
25		令和4年度しぐれ忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-I	俳聖殿の芭蕉祭と柘植萬壽寺でしぐれ忌を行っている。しぐれ忌も伊賀市全体を対象としているものの、関係者以外の参加者のほとんどが旧伊賀町の人に限定されている。	参加者数 開催数 開催経費 収入			100人	86人	俳聖殿の芭蕉祭と柘植萬壽寺でしぐれ忌を行っている。しぐれ忌も伊賀市全体を対象としているものの、関係者以外の参加者のほとんどが旧伊賀町の人に限定されている。	継続					
26		令和4年度 土芳忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-I	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入			30人	25人	忌日の1月18日は大寒であり、毎年寒いのが、特に今年の寒さは厳しく高齢の方の参列が少なかった。	継続					
27		令和4年度 土芳忌追善の講話	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-I	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入			30人	25人	忌日の1月18日は大寒であり、毎年寒いのが、特に今年の寒さは厳しく法要同様参加が少なかった。	継続					
28		令和4年度 土芳を偲ぶ俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-I 5-I	芭蕉の弟子、服部土芳の命日に俳句会を行い土芳を偲ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入			50人	25人	土芳を偲ぶ俳句会であるため、当日の法要の様子を詠んだ句が多く、法要に参列しない人は参加しにくい。	継続					
29		令和4年度 俳句の教え方教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-I 2-II 5-I	市内の小中学校では芭蕉祭に献詠するため、俳句が夏休みの宿題となっている。献詠俳句の指導だけでなく、俳句裾野を広げる指導者が、俳句指導の取組方について学ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入			30人	30人	伊賀の学校では、俳句学習の重要性を認識されているため、積極的な参加及び意見も活発に出された。	継続					
30		第22回蕉門大学「日本の調べ」～雅楽の神髄～	公益財団法人 前田教育会		5-II	日本古来の芸能である雅楽。その音色、使われている楽器に触れ、伝統の素晴らしさを学ぶ。	参加者数 開催数 開催経費 収入				68人							
31		中学・高校生の郷土学習の受け入れ協力	公益財団法人 伊賀文化産業協会		3-I 3-II 5-I	伊賀の歴史・文化をフィールドワークに協力し、若い世代の郷土への理解に促進に期待。	参加者数 開催数 開催経費 収入			高校生23人	3回	3回	3つの学校、団体の学習活動に協力。専務理事が伊賀上野城の歴史、伊賀の文化などの講話をした。高校生の意欲的な活動を期待している。	継続				
32		歴史的資料の展示(常設展・企画展)	公益財団法人 伊賀文化産業協会		4-I 4-II 5-I 6-I	特に藤堂藩の関係の史料(武器甲冑、文書、絵図等)から戦国～近世の伊賀の歴史・文化を学び、また現天守閣の復興に私財を投じた川崎克氏に関する史料から先人の功績をたどる。また、毎年、テーマを決めた企画展を実施。	参加者数 開催数 開催経費 収入			75,000円	78,000円	コロナ禍からの脱出傾向が見られ、前年度より登閣者が増えたものの、平常時の10万人までは観光施設としての実績であり、企画そのものの反応とは判断出来ない。経費も個別には算出していない。	継続					

【基本方針7】文化芸術を通じた社会的課題への取り組み(施策の方向Ⅰ 社会参加のきっかけづくり、Ⅱ 協働の場の創造)																		
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン基本方針	事業目的	参加者数	R3計画時	R3実績	R4計画時	R4実績	R4目的達成度、課題など実施により感じたこと	R5方向性	R5計画時	市総合計画施策	まちづくりアン	R3	R4速報値
33		蕉門キネマ「お終活」	公益財団法人 前田教育会	共催 伊賀市社会福祉協議会	7-I	蕉門大学の一環でキネマゼミとして開催している。伊賀市社会福祉協議会は、2021年度(中止となった)までは公演団体として行ってきた。醸成作品については、社会での様々な問題を取り上げ、地域の方が要望も考慮しつつ選択している。そのような中で、社協の取り組んでいる様々な生活課題と合致していく中で2022年度からは共催事業となった。	参加者数 開催数 開催経費 収入				249人		継続					

